



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692(住所記入不要)
☎0276-88-5111(代表)
☎0276-47-5007(企画課直通)
☎0276-89-0136
http://www.town.ora.gunma.jp
✉kohoto@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができません場合はURLをご入力ください。
携帯用URL http://www.town.ora.gunma.jp/k



若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



今年の冬至は12月21日。一年の中で最も日中が短い日です。ちなみに日の入りは午後4時32分だそうです(写真は高根澤高明さん撮影)。

冬至の朝

十三坊塚の一部では、どこの家でも必ず冬至の日の前日になると「明日は冬至だから、忘れずに稲荷様に水をあげるんだよ」と言われたものでした。

この辺りでは早朝、手桶にくみたての井戸水を入れ、屋敷稲荷様の屋根一面に柄杓でかけてあげます。

冬の季節で、これからますます乾燥し、そのうえ火を使うことも多くなってきたので火災予防が大切です。

そこで、消防設備も十分でなかった昔は、火災予防運動の具体的方法を信仰と結びつけて、これをしきたりとしたのではないかとわれています。

母屋の守り神

戦前の農家はどこの家でも茅かやや麦わらを使った屋根が多かったのです。わらぶき屋根、茅ぶき屋根のことを、くず屋根ともいいました。

こうした屋根は年月が過ぎますと傷みが激しく、まして日の当たらない北側の屋根など早く雨漏りがして、部屋中に漏れ込んで、大変苦勞をしました。そこで早い家では十年も過ぎると屋根替えをしなければなりませんでした。

当時の人たちにとっては、この仕事は

大変な苦勞でした。親戚はもちろん、隣近所の人たちに手伝ってもらっての大作業でした。またこの仕事は十年來積もったすすとはこりとの闘いでした。

屋根わらを上の方から取り除いて、だんだんと片付いてきたころ、突然誰かが、「蛇だ、蛇だ」と叫びます。すると、その家の主人が、「殺すな、殺すな」と言いながら、棒の先に蛇をくくりつけて、どこかに逃がしてきます。めったに見られないような大きな蛇や、時には白い蛇もいたそうです。

屋根ぶきも完成し、茅や麦わらの香りが漂う母屋の生活が始まると、いつの間にか逃がした蛇が屋根裏に住むようになり、母屋の守り神となって同居するのです。

その家の主人も、蛇が本当に母屋の守り神なのかどうかは分からないが、昔から神として大事にしたようです。



茅ぶき屋根の家(写真はイメージ)

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



HIKARI MIRAI
(おうら中央)
多目的広場



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶「頑張る」。そうするための理由を探し始めたときの私は、何か悩んでいるときだったり、上手くいかないことがあったり、「頑張れどころ」のエネルギーが枯渇しているときです。▶ある日、取材で保育園へ。おやつ
の時間でした。私の視線をどう受け取ったのか、園児たちが私にお菓子を分けてくれました。「ありがとうれいよ」に続けて「みんなのお菓子がなくなっちゃうよ。どうしてこんなにくれるの?」ともいいました。なぜなら、分けてくれたお菓子が私の両手いっぱいになるほどだったからです。そして一人の女の子が、ちよこちよこつと私のそばへ来て「だって、いつも頑張ってるから!」と…。▶「ハッ」とさせられました。「そうだ。私は、そういう仕事をしているんだ」と。2017年は酉年、年男。(深澤)



この広報紙は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。